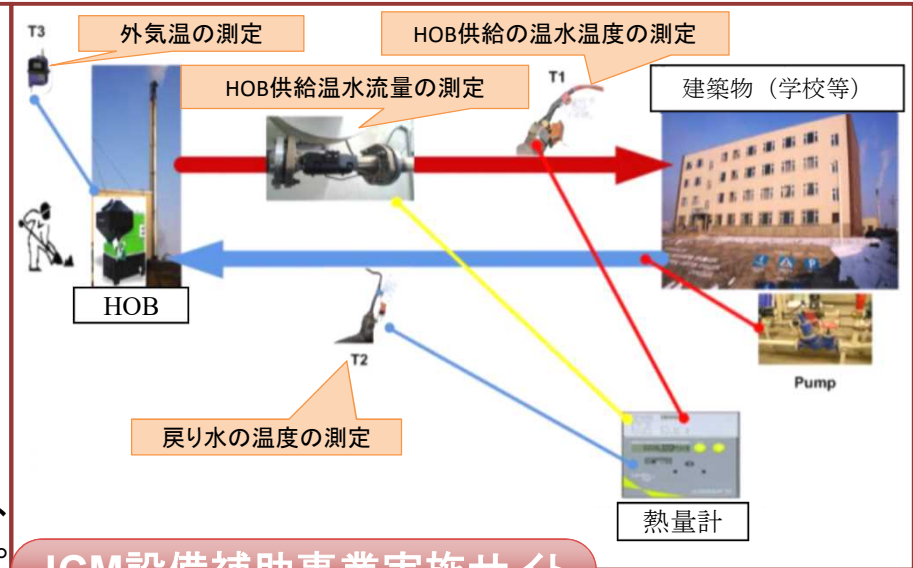


高効率型熱供給ボイラの集約化に係る更新・新設プロジェクト

プロジェクト実施者: (日本側) 数理計画、(モンゴル側) Anu-Service

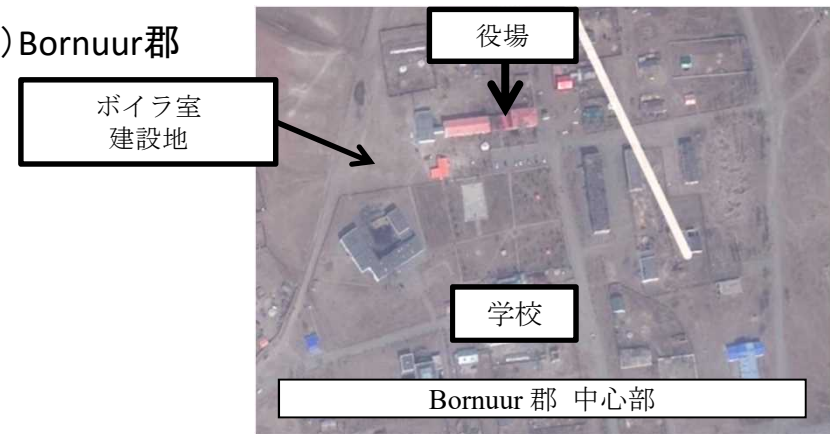
GHG排出削減プロジェクトの概要

- 1) Bornuur sum (Bornuur郡)において、施設個別に使われている旧型の低効率熱供給ボイラ(HOB)の使用を止め、複数の高効率熱供給ボイラ(HOB)を集約的に導入し、暖房用温水を複数施設に供給する。HOB集約化に合わせて、配管・電設設備も整備し、集中制御システムにより高効率HOBの運転管理を行うとともに、排ガスの温度及び含有酸素濃度などの計測結果に基づき、ボイラ運転最適化のための日本人技術者による技術指導を行い、オペレーション技術を移転する。
ボイラ効率の改善(低効率HOBから高効率HOBへの転換)は、ボイラ燃料である石炭の消費量削減に寄与するため、CO₂排出量及び他の大気汚染物質の排出量を削減できる。
- 2) ウランバートル市内の学校に最新型高効率HOBを導入して、既存の旧型低効率HOBを置換する。これにより、石炭消費量が削減され、CO₂排出削減を達成する。



JCM設備補助事業実施サイト

1) Bornuur郡



2) 第118学校(ウランバートル市Khan-Uul地区)

想定GHG削減量

298tCO₂/年

$$\begin{aligned} &\leftarrow (\text{リファレンス石炭消費量} - \text{プロジェクト石炭消費量}) \times \text{排出係数(EF)} \\ &= \{ (1 \div \text{リファレンスボイラ効率}) - (1 \div \text{プロジェクトボイラ効率}) \} \times \text{供給熱量} \times \text{EF} \end{aligned}$$

モニタリングに用いる熱量計は、モンゴル国家規格(MNS 6241)を満たしたものとする。

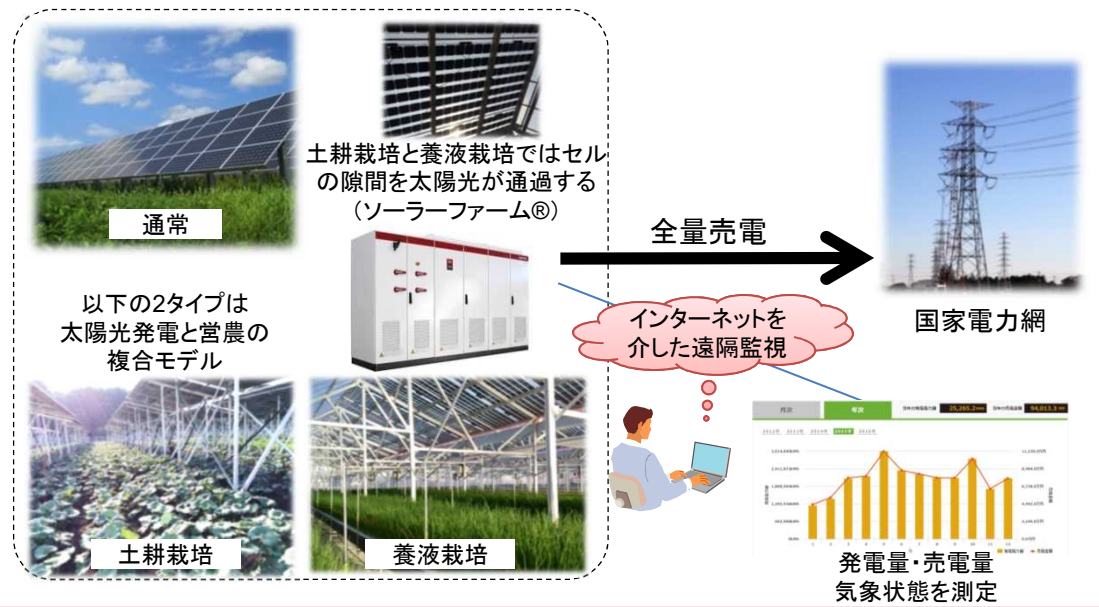
首都近郊農場での12.7MW太陽光発電による電力供給プロジェクト

プロジェクト実施者: (日本側)ファームドウ株式会社、(モンゴル側)Everyday Farm LLC、Bridge LLC

GHG排出削減プロジェクトの概要

ウランバートル市近郊の農場において、12.7MWの太陽光発電施設を建設し、火力発電の一部を代替することでCO2 排出量を削減するとともに、電力の安定供給や冬季の大気汚染の軽減にも貢献する。

また、農業と発電事業の組合せによる新たな複合モデルとしての普及を目指し、急速な経済成長の過程にあるモンゴル国の環境、エネルギー、食糧等に関わる生活関連の多くの問題を解決できるシステムとして実践していく。



想定GHG排出削減量

12,009 tCO₂/年

= プロジェクトによりグリッドに供給される電力量(EG) × プロジェクトにより代替されるグリッド電力の排出係数(EF)
 = 導入システムの発電容量[kW] × 年間稼働率 [%] × 24時間 × 365日 × EF

JCM設備補助事業実施サイト

モンナラン農場 (24ha)、ソングノハイラン区



プロジェクトサイトは、ウランバートル市中心部から北西方向へ約37kmの位置にある、Everyday Farm社が所有権を有する既設農場

